

T u t t i

岡山県合唱連盟機関紙トゥッティ118号

発行責任者：事務局長 内田 毅

事務局：岡山市中区福泊 168-7 内田方

TEL:090-4695-7826/FAX:086-274-2726

e-mail : utida2443@gmail.com

主な内容

- 2面 アンコン全国大会へ向けて
総社東中学校・岡山城東高校
- 3面 おかあさんのための発声講習会
La Voce
- 4面 役員改選報告

研修部は考える〈第二弾〉

～次の世代に繋いでいくために変わるべきこと～

岡山県合唱連盟理事長 小池芳弘

少子高齢化の波の中での、次世代を担う若い合唱人自体の減少、また地域への移行という学校の部活動の在り方の変化、その一方でベテランメンバーの高齢化の加速など、合唱を取り巻く異次元の環境変化。そして丸3年に及んだコロナ禍による合唱界への「打撃」の連続により、全国の加盟団体数はこの5年間で約1000団体、人数では4万人の減。岡山県も例外ではありません。その歯止めを、でき得るなら増加の手立てを模索するためにタスクフォースとして集まった県連研修部メンバーを中心にここ数年試行錯誤していることは以前にも触れました。

各団体が加盟を継続し、生き生きと活動するために連盟が果たす責務は、大きく括れば合唱活動の「支援」と「促進」といえます。「支援」では、メンバーのスキルアップを図るための講習会の工夫、あるいは気軽に演奏できるステージの企画が中心でしょうか。「不易流行」「温故知新」ではありませんが、研修部では従来の企画を再評価しながらさらに新たな視点で企画を練り直す作業に取り組んでいます。

「促進」としては、未加盟団体の加盟が重要な課題です。コロナ禍の一段落つきつつある現在、喫緊の課題として、SNSを有効活用した周知のための積極的な広報活動、前号でお伝えした地域交

流イベントの開催や体験参加の機会提供、またこれらを通じて加盟のメリットをどう伝え、どう体験してもらうかは、新たな仲間を迎え入れるための大切な視点です。岡山では学校や地域コミュニティと連携して合唱教室やワークショップを開催し、幅広い年齢層の人、特に若手の合唱メンバーを育成してくれる牽引役の指導者自身を組織的に育成することなど、次世代を担う合唱人を育てるための取り組みも積極的に行うことを一歩ずつ進めています。その中で、大学生をターゲットに企画した、1月の冬期講習会の講師の山脇先生の印象的な言葉を紹介します。「いま大学合唱団はすごく演奏レベルが上がっている。でも、それは、いままで合唱経験のあるメンバーしか入部していないから。怖いのは、大学から合唱を始める学生が今後加速的に減少して、合唱の裾野が広がらなくなること。」コロナ禍の後遺症に悩まされる合唱界の恐怖、実は何年続くのか分からないのです。だからこそ、私たちはいま目の前にいる若者に温かなまなざしを向けます。

未来を受け継ぐ合唱人を広く育てるためのキーワード、岡山においては「地域と若者の発掘」。研修部では今後も地道に知恵を出し合い、合唱文化の振興と発展に努めてまいります。

声楽アンサンブルコンテスト全国大会に向けて

総社東中学校合唱部 顧問 山田 瑞穂

2年生5名、1年生2名の全部員7名という過去最少人数でのチャレンジでしたが、2019年以来5年ぶりに、念願の4度目の全国大会出場を果たすことができました。人数ではない、音楽のもつ力、アンサンブルが醸し出す響きの力を改めて勉強させていただきました。今まで熱心にご指導くださった先輩方、いつも温かく見守り支えてくださっている保護者の皆さまには心からの感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。毎日一生懸命練習し、毎年チャレンジしながらも、思うような結果に繋がらない悔しい思いもいっぱいしてきました。しかしながら、決して下を向くことなく、先輩方の思いを継承しながら、何があるかと仲間を信じ、仲間と共に、支え合い励まし合いながら、日々コツコツと大好きな歌に真正面から取り組み努力してきた結果だと思います。その姿勢はこれからも変わるものではありません。私たち総社東中学校合唱部グリーのモットー「ちいずけいき」、そして、「挨拶」「集中」「反応」を練

習の軸に、これからも「異体同心」のチームワークで頑張りぬきたいと思います。そして、部員一人一人が流した大粒の涙を大いなる糧として、福島でも総社東中学校合唱部グリーらしく、明るくさわやかな歌声をホールいっぱい響かせてまいります。本当にありがとうございました。



岡山県アンサンブルコンテストを終えて思うこと

岡山県立岡山城東高等学校合唱部 1年 甲元 葵

この経験は自分自身と向き合う良い機会となった。少人数だからこそその難しさ、自分の声と向き合い挫けそうになる日々、当日のリハーサルや舞台裏の緊張感など振り返ってみると色々な思いが込み上げてくる。そんな中、私達のグループは「人の心に響く演奏をする」ことを心がけてきた。本番の歌い終えた後この目標と共に全力で曲と向き合ってきたことに良かったと思えた。

私達は特に色々な人からのアドバイスを吸収する事を大事にして、それを発揮する事を意識してきた。そのため、一人一人が個性や表現を大切にしながら自分の声を磨き一つの音楽を作ってきた。しかし本番の約二週間前、顧問の森野先生の「全国に達するレベルの以前に何も伝わってこない」という言葉に悔しさや自分の無力さを思い知らされたが、それを糧に残りの練習を大切に全員で音楽を作ることに励んだ。

最後に、いつも私達を支えて下さっている顧問の先生方を始め、共に高め合った仲間、一番近くで見守って下さった家族、応援して下さいました皆様

を伝えたいです。本当にありがとうございました。全国大会では、三年振りに全国の舞台上に立たせていただけた事の嬉しさと、OJCの代表としてこのメンバーで作上げてきた全てを出し切ることを頑張ります。また、音楽で誰かを幸せにする事の大切さを胸に人の心に響く演奏をしてみたいです。あたたかい応援何卒よろしくお願い致します。



おかあさんコーラス補助事業 ～おかあさんのための発声講座～

La Voce 小林美恵子

2月23日(金・祝)、全日本合唱連盟中国支部と島根県合唱連盟主催の、おかあさんのための発声講座(松江市総合文化センターにて)を受けてきました。

La Voce メンバー2人で、冬の松江の美味しいものを食べるのも楽しむつもりで出掛けて行ったのですが、講師の青山恵子先生のお話は実践も交えながら本当に具体的で分かりやすく、しかも楽しくて、前泊してでも行かせていただいて本当に良かったと思いました。

午前中は、発声のための身体の仕組みから始まって、呼吸のこと、声帯のこと、共鳴のことを、順を追って実に丁寧に教えてくださいました。笑う表情、切ない表情、泣く表情、そうした感情に伴う息の使い方が、どのような喉の開け方、呼吸に繋がっているかなど、それはまさに目からウロコのお話ばかりでした。

「支えを意識するには自前の腹帯を意識しましょう。富士山の裾野を広げるように呼吸して。」「みんな、とんぼ、りんご、同じ“ん”でも舌の位置が違いますが、りんごの“ん”が一番ハミングで上から下まで出ます。」「笑いながら“ニャーハハ”と言ってみましょう。魔女の笑いのように。」
先生ご指導のひとつひとつがとても新鮮で、具体的に、面白かったです。

複式呼吸で横隔膜を下げる、喉を開ける、笑顔、鼻腔に通す、首の後ろの筋肉や背筋を使うなど、長く合唱をやっていると何度も聞き慣れたワードでありながら、青山先生独自の手順でひとつひとつ紐解いていくと、実は体感としてよく分かっていなかったこと、勘違いしていたこと、不自然であったことなどを自分の内にもいろいろと発見することがありました。

午後からは「ゴンドラの唄」の実践の中で、日本語をいかに伝えていくか、母音と子音をどう扱っていくかなど、より具体的にご指導に、他の曲の歌唱にも共通するであろうたくさんの方のヒントをいただくことができました。

その後は島根県の2団体による発表と、青山先生からの公開アドバイスの時間となり、こちらもたくさんの方の学びと刺激をいただくことができました。最後は全員で「ゴンドラの唄」の大合唱。教わったことをひとつひとつ思い出しながら丁寧に言葉を歌っていきました。

今回教えていただいたことを自分たちの団に持ち帰り、明日からの練習に活かしていけたらと思います。全国の各支部でこうした講座が開催されるのは、今年が初めてだそうです。来年は広島ということで、都合がつけばぜひまた参加させていただきたいと思いました。



県連臨時総会及び中国支部臨時理事会で来年度から2年間の執行体制が決まりました。

【岡山県合唱連盟】

理事長：小池 芳弘

副理事長：大山 敬子、松下 泰久、内田 毅

監事：赤木 正明（西大寺混声合唱団）

藤井 和郎（岡山市民合唱団鷺羽）

理事団体：（ジュニア）倉敷少年少女合唱団

（中学校） 総社西中学校コーラス部

総社東中学校合唱部グリーン

（高等学校）未定（2団体の予定）

（大 学）岡山大学グリーンクラブ

岡山大学男声合唱団大コール・ロータス

岡山理科大学混声合唱団クリスタルコール

（一 般）倉敷コール・クライネ

瀬戸内混声合唱団

合唱団こぶ

混声合唱団 SOLA

La Voce

IL MAGAZZINO

（おかあさん）コール・ココ

コーロ グリーチネ

U-mammy's

常任理事：今福 茂樹、蜂谷 陽子、脇本 恵子

事務局長：内田 毅

【全日本合唱連盟中国支部】

支部長：小池 芳弘

副支部長：福原 泰弘（広島県連理事長）

岡山選出理事：大山 敬子

監事：松下 泰久

事務局長：内田 毅



【編集後記】

2月11日に岡山県合唱連盟の最後の事業、アンコンが終わりました。1団体が体調不良により出場を辞退されましたが、47団体グループが熱唱を繰り広げられ、3団体を全国大会に推薦することが出来ました。その内、中学校代表の総社東中学校、高校代表の岡山城東高校には次ページに全国大会への意気込みを書いていただきました。一般代表のK-moIIと公募による選考で出場を勝ち取られた倉敷少年少女合唱団には全国大会終了後の感想を次号で書いていただきます。

「おかあさんのための発声講座」は全国規模で開催していた「おかあさんカンタート」を支部単位で開催することにしたもので、島根が最初の開催でした。支部の事業ですので支部事務局党として参加してきました。岡山からの参加者を二人確認しましたので、早速Tuttiへの原稿をお願いしました。2024年度のこの講習会は広島県連の担当で来年の2月に開催されます。岡山県からも参加しやすいので、多数の方々参加をお待ちしています。

また上記のように中国支部は岡山県連が中心となって牽引する体制となりました。皆様のより一層のご協力をよろしくお願いいたします。

事務局長 内田 毅